

前回は肺炎の種類や特徴、予防策についてお伝えいたしました。どれくらい日常生活で実践できていますか。今回は肺炎の原因についてお伝えいたします。

肺炎をおこす病原体には多くの種類があります。主なものとして次のものがあげられます。

- ・真菌(カビの仲間)
- ・ウイルス
- ・マイコプラズマ
- ・クラミジア

この中で最も多いのが肺炎球菌です。日本呼吸器学会の「成人肺炎診療ガイドライン2024」によると、肺炎の原因菌のうち肺炎球菌は33〜50%、インフルエンザ菌は7〜16%を占めています。

肺炎球菌による肺炎は時に重症化します。この菌は子どもの鼻や喉に住み着いて、特に小児や高齢者に多く、特に小児や高齢者に

いわて医療通信【命に関わる身近な病気】

2.肺炎の主な原因菌「肺炎球菌」



肺炎球菌が体にいても必ずしも肺炎を発症するわけではありませんが、風邪やインフルエンザで体が弱っている時や誤嚥をしてしまった時に、肺炎や全身の感染症を起すことがあります。

また、中耳炎や副鼻腔炎を発症することがあります。2023年に重くならんとすると、肺炎による死亡者のうち97・8%で感染が広がった場合は、脊髄炎を、菌が血液を介して全身へと広がった場合は敗血症を起すなど命に関わる可能性も

あります。インフルエンザ菌は、肺炎の原因菌として2番目に多く、特に小児や高齢者に

感染しやすいことで知られています。インフルエンザウイルスにかかって免疫力が低下しているときに、二次感染として肺炎を引き起こす原因菌になります。なお、インフルエンザ菌とインフルエンザウイルスは、名前が似ていますが全く別の病原体です。

その次に多いのが、マイコプラズマによる肺炎です。発熱と長く続く激しい咳が特徴で、初期には痰のない乾いた咳が始まり、徐々に痰を伴う咳へと変化します。咳はしつこく、3〜4週間ほど続くこともあります。

2023年のデータによると、肺炎による死亡者のうち97・8%で感染が広がった場合は、脊髄炎を、菌が血液を介して全身へと広がった場合は敗血症を起すなど命に関わる可能性も

あります。インフルエンザ菌は、肺炎の原因菌として2番目に多く、特に小児や高齢者に

感染しやすいことで知られています。インフルエンザウイルスにかかって免疫力が低下しているときに、二次感染として肺炎を引き起こす原因菌になります。なお、インフルエンザ菌とインフルエンザウイルスは、名前が似ていますが全く別の病原体です。

その次に多いのが、マイコプラズマによる肺炎です。発熱と長く続く激しい咳が特徴で、初期には痰のない乾いた咳が始まり、徐々に痰を伴う咳へと変化します。咳はしつこく、3〜4週間ほど続くこともあります。

2023年のデータによると、肺炎による死亡者のうち97・8%で感染が広がった場合は、脊髄炎を、菌が血液を介して全身へと広がった場合は敗血症を起すなど命に関わる可能性も

あります。インフルエンザ菌は、肺炎の原因菌として2番目に多く、特に小児や高齢者に

感染しやすいことで知られています。インフルエンザウイルスにかかって免疫力が低下しているときに、二次感染として肺炎を引き起こす原因菌になります。なお、インフルエンザ菌とインフルエンザウイルスは、名前が似ていますが全く別の病原体です。

その次に多いのが、マイコプラズマによる肺炎です。発熱と長く続く激しい咳が特徴で、初期には痰のない乾いた咳が始まり、徐々に痰を伴う咳へと変化します。咳はしつこく、3〜4週間ほど続くこともあります。

2023年のデータによると、肺炎による死亡者のうち97・8%で感染が広がった場合は、脊髄炎を、菌が血液を介して全身へと広がった場合は敗血症を起すなど命に関わる可能性も

あります。インフルエンザ菌は、肺炎の原因菌として2番目に多く、特に小児や高齢者に

感染しやすいことで知られています。インフルエンザウイルスにかかって免疫力が低下しているときに、二次感染として肺炎を引き起こす原因菌になります。なお、インフルエンザ菌とインフルエンザウイルスは、名前が似ていますが全く別の病原体です。

その次に多いのが、マイコプラズマによる肺炎です。発熱と長く続く激しい咳が特徴で、初期には痰のない乾いた咳が始まり、徐々に痰を伴う咳へと変化します。咳はしつこく、3〜4週間ほど続くこともあります。

2023年のデータによると、肺炎による死亡者のうち97・8%で感染が広がった場合は、脊髄炎を、菌が血液を介して全身へと広がった場合は敗血症を起すなど命に関わる可能性も

あります。インフルエンザ菌は、肺炎の原因菌として2番目に多く、特に小児や高齢者に

感染しやすいことで知られています。インフルエンザウイルスにかかって免疫力が低下しているときに、二次感染として肺炎を引き起こす原因菌になります。なお、インフルエンザ菌とインフルエンザウイルスは、名前が似ていますが全く別の病原体です。

その次に多いのが、マイコプラズマによる肺炎です。発熱と長く続く激しい咳が特徴で、初期には痰のない乾いた咳が始まり、徐々に痰を伴う咳へと変化します。咳はしつこく、3〜4週間ほど続くこともあります。

2023年のデータによると、肺炎による死亡者のうち97・8%で感染が広がった場合は、脊髄炎を、菌が血液を介して全身へと広がった場合は敗血症を起すなど命に関わる可能性も

あります。インフルエンザ菌は、肺炎の原因菌として2番目に多く、特に小児や高齢者に

感染しやすいことで知られています。インフルエンザウイルスにかかって免疫力が低下しているときに、二次感染として肺炎を引き起こす原因菌になります。なお、インフルエンザ菌とインフルエンザウイルスは、名前が似ていますが全く別の病原体です。

特に、免疫力が低下している方や高齢者に対して有効です。冷え込む日が続く、感染症が流行する時期でもありますので、ぜひ接種を検討しましょう。

岩手医科大学
内科学講座呼吸器内科分野
川田一郎

川田一郎

川田一郎

川田一郎

川田一郎

川田一郎

川田一郎

川田一郎

川田一郎

川田一郎

川田一郎